

## 1 時間遅れを三木町三役に深謝!

雨中の行進になりました。出発式は中田耕二ドクターが、沖縄復帰 50 年国民の「核抜き」の悲願の強さが今に継続していると指摘。この気持ちに学んで行進をすると決意。山口逸郎さんの平和行進への思い入れに、参加者が感動し 90 歳に二度ビックリ。写真撮影を終えると、全員で「一步」を踏み出して、行進を開始しました。

協同病院での集会は、医療生協組合員や職員が多数出迎えてくれました。北原院長はロシアの侵攻と核兵器使用の威嚇で核抑止が破綻したと指摘し、日本では「核共有」との軍事対軍事対応へ大きな圧力をかける声を平和行進で積み上げようと呼びかけました。山口さんは、念願の「お遍路行進」が実現し、今全盲の星野さん（滋賀県）が 103 羽で作った「平和」を胸に同行二人で元気に行進していると、参加者を鼓舞。

三木町への到着が、協同病院での集会後の行進に手間取り 1 時間遅れとなりました。それにもかかわらず、三木町三役からは暖かい激励の挨拶を頂きました。更に原水爆禁止県民会議広瀬事務局長のサプライズの連帯挨拶もありました。

高西副町長：唯一の被爆地広島・長崎を二度と起こしてはいけないが、今ロシアの核兵器使用の危険が高まっているが、決して落胆せずに反戦・平和の世界を確信し町民の平和な日々を築くために力を合わそうと呼びかけ、行進をねぎらって頂きました。

富田議長：雨中の行進を三木町に迎えて光栄と述べ、ロシアの侵攻と核使用発言は許せないと強調。三木町では日本政府への「核禁条約」批准意見書採択したと報告。森教育長からも激励。

広瀬原水禁事務局長：安保法制以来の様々なレベルでの枠を超えた共通問題での、共同を築き上げてきたと強調。核兵器問題でもここ 2 年間コロナの中でも、禁と協との連携を続けてきたが今後ともこの共同を継続していきたいと連帯あいさつ。本日も 3 人が初行進。



協同病院では、たくさんの皆さんが出迎えてくれました。



三木庁舎玄関前で三役と広瀬事務局長と出迎参加者

コムコム会館前で雨の中の  
出発集会

